

調査結果の概要

平成30年度女性就業意識調査結果（若年女性抽出結果概要）

山口県労働政策課

1 調査概要

- 調査の趣旨：女性就業の「M字カーブ」解消に向けて、女性の就業に関する意識や現状を把握することを目的に実施
- 調査対象等：平成30年7～8月に、関係機関（市町保健センター、子育て支援拠点、商工会議所、山口しごとセンター等）を通じて、調査票を配布
- 回答件数：1,711件（そのうち、若年女性（18～39歳）の回答750件）

2 働き方のニーズ等

- 働き続ける理由としては、経済的理由が約8割と、圧倒的に多いことから、豊富な就業機会の確保が必要である。
- 再就職に当たっての勤務形態の希望は、パートタイムと短時間勤務が8割にのぼっており、多様で柔軟な働き方が必要である。
- 再就職に当たって必要な条件は、労働条件の希望、仕事と家庭の両立、保育環境の充実を挙げる者が多い。

区 分	上位回答	割合
現在の働き方	①正社員（フルタイム） ②働いていない ③パート・アルバイト ④正社員（短時間勤務）	53.8% 20.7% 17.1% 4.9%
今後の予定	①現在働いており、今後も働き続ける ②現在働いていないが、今後働きたい ③仕事をやめるつもりである ④働くつもりはない	73.1% 19.7% 6.3% 0.9%
現在働いており、今後も働き続けたい理由 （複数回答）	① <u>経済的理由で働く必要がある</u> から ②職場の雰囲気や人間関係がいいから ③必要な時に休める職場であるから ④仕事にやりがいがあるから ⑤社会との交流やつながりを持ちたいから	<u>79.7%</u> 30.7% 29.4% 27.6% 27.4%
現在働いていない人が希望する働き方	①パート・アルバイト ②正社員（フルタイム） ③正社員（短時間勤務）	<u>66.7%</u> 18.5% 14.8%
現在働いていない人が今後働くための条件 （複数回答）	①希望する労働条件の職場があること ②必要な時に休める職場であること ③保育園など、子どもの預け先があること ④希望する仕事内容の職場が見つかること ⑤子育てが一段落すること	78.9% 70.7% 61.9% 49.7% 49.0%

3 離職・復職に対する考え方

現在働いている人	①過去に離職経験あり 55.2%	②離職経験なし 44.8%
現在働いていない人	①過去に働いた経験あり 98.7%	②働いた経験なし 1.3%

- 離職者の半数近くが、「家事・育児に専念するため自発的に離職」しており、また、やめたことについて納得している者が3分の2となっている。
- 一方、結婚・出産等で離職した人の9割以上が、再び働くことを希望していることから、仕事と家庭を両立できる環境があれば、離職しないで済んだ可能性は高い。

区 分	上位回答	割合
離職理由（結婚、妊娠、出産、子育て関係）（複数回答）	①家事・育児に専念するため、自発的に離職	46.8%
	②夫の勤務地や転勤の関係で就業継続が困難	31.0%
	③時間的に仕事を続けるのが難しかった	24.3%
離職したことをどう思っているか	①やめて良かった	67.6%
	②できればやめたくなかった	26.3%
結婚・出産等で離職したとき、再び仕事を始めたいと思っていたか	①時期が来たら仕事を始めたいと思っていた	34.1%
	②すぐにでも仕事を始めたいと思っていた	32.8%
	③いずれは仕事を始めたいと思っていた	26.6%
	④再び仕事をするつもりはなかった	2.1%
		93.5%

4 仕事と家庭の両立

- 子育て中は、5割の者が条件を変えて働くことを希望しており、多様で柔軟な働き方の必要性が窺える。また、両立支援については、働きやすい職場環境づくりと、保育環境の充実に対するニーズが高い。
- 支援情報の入手先としては、3分の2がインターネットやSNSであり、次いで友人等からの口コミが多い。

区 分	上位回答	割合
出産後・子育て中の働き方の希望	①条件を変えて働きたい	50.6%
	②出産後・子育て中は仕事をやめたい	27.4%
	③現在と同じ条件で働きたい	21.9%
子育てや介護をしながら働く上で必要な支援（複数回答）	①仕事と家庭の両立に向けた職場環境づくり	64.0%
	②乳幼児保育の充実	58.3%
	③女性が働きやすい環境づくりに向けた行政支援	54.0%
	④学童保育の充実	50.3%
	⑤男性の家事・育児参画促進に向けた行政支援	32.5%
就業や子育て・介護支援に関する情報の入手方法（複数回答）	①インターネット・SNS	66.3%
	②友人・知人からの口コミ	41.9%
	③テレビ	32.3%
	④フリーペーパー	21.7%
	⑤職場の同僚からの口コミ	20.5%

5 男女の役割分担

(1) 役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うか）

○ 妻の考え方と、（妻が感じている）夫の考え方には差がある。

区 分	自分（妻）の考え方		（妻が感じている） 夫の考え方	
	そう思う	26.0%	2.0%	35.8%
どちらかというと思う	24.0%		29.3%	
どちらかというと思わない	61.9%	17.5%	50.4%	20.1%
そう思わない		44.4%		30.3%
どちらでもない	12.1%		13.9%	

(2) 家事・育児・介護分担の状況

○ 家事・育児については、夫と平等に分担しているという者は2割程度で、妻主体の者が約8割を占める。

区分	自分（妻）のみ又は自分（妻）が主体			妻と夫が 平等に分担	夫のみ又は 夫が主体
	自分（妻）のみ	ほとんど妻が行 い、夫が手伝い	計		
家事	24.2%	56.7%	80.9%	16.1%	1.4%
育児	7.4%	70.8%	78.2%	20.2%	0.3%
介護	14.3%	47.6%	61.9%	9.5%	9.6%

6 自由意見（一部）

- 短時間勤務に対して理解がない。子どもの病気で休まないといけない時も、仕事が気になり看病できない。
- 夜勤のある仕事で、育休明けに両立できる自信がなかった。
- 短時間で働ける、家から近い、など条件が揃えば働き続けてもよかった。
- 子育てに専念するため希望して離職したが、再就職を考えると離職せずに続けた方が良かったのか答えが出せない。
- 家事・子育てを理由に、男性が休みを取得したり、男女分担して両方を担うことを支援してくれる職場が少ない。
- 男性が育児休暇などを取得することを「当たり前」に認められる職場が少ない。
- リフレッシュ、休息の時間を持つための支援も必要。自分の時間が持てて、リフレッシュできると仕事、家庭のことがしっかりできる。
- 働くのは良いが、出産や育児などで、どうしてもフルタイムで働けなくなる。
- 男女関係なく、自由な役割分担をすればいい。その自由が普通になる環境がいい。
- 支援があれば働ける人、理解があれば働ける人はたくさんいる。
- お互いに仕事を持っていれば、女性だけが家事をするのではなく、男性も家事をして互いに助け合う必要がある。